

第3回新しい学校づくり推進委員会 会議概要

- 1 日 時 平成26年1月17日(金)
開会：午後2時
閉会：午後4時05分
- 2 場 所 大安公民館2階 大会議室
- 3 出席委員 森脇健夫 織田泰幸 小林共子 土岐昌男(代理 児玉光明)
小寺光紀 藤本孝徳 水貝明子 児玉勝彦
山下秀人(代理 三羽典子) 井上征樹 三輪美紀
近藤恵理子(代理 花井智也) 吉野 睦 佐野謙二 渡部正利
- 4 欠席委員 岡 正光 児玉由布子
- 5 出席した事務局職員
教育委員長 川瀬正幸 教育長 片山富男
教育部長 近藤重年 教育総務課長 小林幸次
学校教育課長 小川専哉 自然学習室長 岡 忠義
教育研究所長 近藤利彦 学校教育課課長補佐 岡本利和
学校教育課課長補佐 北本吉宏 教育総務課課長補佐 梶 正弘
教育総務課 伊藤宗幸 教育総務課 大久保美佳
- 6 会議次第
 - 1 開会
 - 2 前回会議録の確認(教育総務課)
 - 3 いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン(案)について
 - 4 中学校区の小中連携の取り組み状況について
 - 5 意見交換
 - 6 PTA及び市民への説明について
 - 7 閉会

7 会議の要旨

委員長・4名の傍聴希望者があり、いなべ市教育委員会傍聴規則に準じて許可する旨を委員に諮り、了解を得た。

・傍聴希望者に傍聴規則を朗読し説明した。

日程第3 いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン（案）について

（いなべ市新しい学校づくり推進ビジョン（案）について、委員から出た意見を
取り入れた修正案を説明した。）

委員・文章中の漢字について、p2 2 (1)「成果を活かし」では活用の「活」の字が使っているが、p2 中段の②「創意工夫を生かし」では生きるという字になっている。区別して使っているのか。

事務局・「成果を活かし」のほうは、活用するという意味を表すために「活」の字を使った。ご指摘のとおり「創意工夫を生かし」についても「活」の字に修正したいと思うが、「活」の字で熟語として正しいかどうかを一度確認したい。

委員・授業スタイル・ルールの統一について、授業スタイルの統一の説明の中で、「いなべの教育」として取り組まれている中学校の授業の様子が紹介された。現在、教職員全員が参加して校内研修を実施している。代表者の授業を観た後に、子どもの姿をもとにした研修会を行っているのだが、授業スタイルが統一される前は、例えば英語の授業の研修会では、他の教科の教師にはわかり難かったり、発言し難かったりという「教科の壁」があった。しかし、授業スタイルが統一されることで、教科の壁が低くなり、他教科の教師からの発言も増え、良い流れになってきている。

委員・p2 学びのつながり④体力向上の取組の充実について、「全学年での体力テストの実施」とあるが、全学校、全学年での体力テストを考えているのか。

事務局・体力向上のためには、全学校、全学年で体力テストを実施することは良いことだと考えるが、このビジョンの中身については、すべての調査項目を一斉に実施することは不可能であるので、教職員と中学校区での意見を尊重して、今後、話し合っていかななくてはならないと考えている。

委員・9年間を見通した小中一貫教育ということだが、発達段階に応じた節目を作っていくことが、子どもたちのモチベーションを考える上で大切であると考えている。例えば、小学6年生という節目に子どもたちの意識が伸びている。もしかすると中学1年生よりも精神的には向上しているのではないかと感じている。小中一貫教育でも、9年間を見通した上での節目が必要であると思う。

また、p2 学びのつながりでは、②「9年間を見通した教科教育の充実」が挙げ

られており、「仲間とのつながり」では①「9年間を見通した感性を育む教育の充実」が挙げられている。しかし、p3 未来へのつながりでは、9年間を見通した項目がないので、将来に向かっての自分の職業や生き方など、キャリア教育に関する項目を入れてはどうか。

事務局・新教科「いなべ未来科（仮）」は自分の将来を見据えてどのように生きるかを考える教科であるので、ご指摘のとおり、キャリア教育という言葉が文章の中を含めるか、③としてキャリア教育の項目を追加することを検討します。

委員・キャリア教育という言葉ですが、出来れば横文字ではない言葉のほうが、わかりやすいのではないかと思うがいかがか。

事務局・キャリア教育という言葉置き換えるならば、いなべ市では従来から「生き方を問う進路教育」という言葉を使っているが、キャリア教育という言葉は教育用語として普及していることから、キャリア教育という表現を用いたいと考えている。

委員・p3 仲間とのつながり③新教科「コミュニケーション科（仮）」の創設について、学校で子どもたちの会話を聞いていると、コミュニケーション能力の育成は大切なことだと感じている。しかし、新教科として創設されるということは、最終的に評価が結びついてくる。これらを、教科として捉えているのか、それとも、教育活動全体を通して大事にしていくと捉えているのか。

事務局・教科として考えているが、評価については、今後、十分な議論が必要であると考えている。

委員長・新教科の創設には、指導要領の枠をはみ出すことになるので、特区申請が必要であると思うが、それについてはどう考えているのか。

事務局・文部科学省の研究開発校の指定があるので、平成27年度をめどに申請を行い、特区申請に繋げていきたいと考えている。

委員・新教科は、どの時間でやっていくのか。新しく時間を上乗せしてやっていくのか。

事務局・それについては、教師が中心になって研究を組み立てていくことが一番望ましいと考えている。次年度から三年間をかけてじっくりと研究を積み上げていきたい。

委員・全体に関わってだが、推進ビジョンで、いなべ市の未来像を挙げてもらってあるが、いなべ市としてなぜこれに取り組むのかという背景が書かれていないように思う。未来像はわかるが、なぜ、平成30年に向けてこの取り組みをしなくてはならないのかという緊急性について、現実的な記載がないと、保護者には伝わり難いのではないかと思う。いなべ市としての背景と、現状はどうなのか、辿り着くところはどんなのかを描いてもらえると、もっと良い推進ビジョンになると思うがいかがか。

事務局・この事業に取り組むに至った背景については、推進ビジョンの前段「はじめに」

の文章の中で記述していく予定である。また、推進委員会で議論したことを、後段「おわりに」として書き加えることを考えている。

副委員長・もともとビジョンとは、現状とのギャップであり、現状はこうであるが理想的な状態はこうであるというものである。現状とのギャップを埋めるための日々の活動を行えば理想に近づくというものが、ビジョンである。従って、いなべ市新しい学校づくり推進ビジョンも、現状がこのような課題や問題を抱えているので、それを克服するためにこれらに取り組むということや、将来的にこの理想的なビジョンが達成されるとこんなに素晴らしい未来が待っているということが伝わるような表現をすることが望ましい。

委員長・ビジョン全体に関わって、また、「はじめに」「おわりに」の文章について、参考となる提案があったので、事務局で検討していただきたい。

委員・保護者も含めているいろんな方がこのビジョンを見ることを考えると、p2 学びのつながり①授業スタイルの統一の「統一」という言葉について、「統一」という言葉が、全く同じに揃えられるような印象や毎時間同じスタイルで授業が進められるような印象を与えるのではないか。「共有化」と柔らかく表現したほうが良いように思うがいかがか。

事務局・ご指摘のとおり修正します。

続けて、ビジョンに対して寄せられたその他のご意見と、事務局の返答を次のとおり提示します。

「p4、2 (4) ①中学校区を単位とした地域ぐるみの教育活動について、これまでは、学校ごとに学校・家庭・地域が一体となった教育環境づくりや教育活動を進め、地域の学校としての役割を果たしてきた。今後は、この取り組みを中学校区の単位で進めることになり、とても広範囲になる。その中心になるのが、PTAの組織・活動づくりになることから、中学校全体の組織と、今までの小学校区の地域担当組織の両方が必要ではないかと考える。地域と密着した組織・活動も残さないと、地域ぐるみの教育活動は推進、充実できないと思う。このようなことから、PTAの組織づくりや地域との連携体制づくりも合わせて考える必要があると思う。」というご意見をいただいた。ご指摘のとおりで、これから2月、3月に地域と保護者の皆さんへ説明会を行っていく予定である。来年度以降も地域の協力を得ながら、一緒に学校づくりを進めていくような組織づくりを進めていきたいと考えている。

「p4 3 (2) 小中一貫教育研究校の指定について、平成27年度に藤原中学校区を研究指定校に指定、平成28年度にプレ研究発表、平成29年度に研究発表とあるが、無理な計画ではないかと感じる。藤原中学校区の5小学校においては、こ

の3年間で、これまで地域と共に歩んできた学校づくりの総仕上げとして、各学校を最高の形で閉じなければならないと考えている。それが出来なければ、新しい学校づくりも良い形・内容で進まないのではないかと思う。このことを前提に考えると、まだ出来上がっていない学校を研究指定校にして、何を研究し、どう実践で検証し、何を発表するのが、全く見えてこない。新しい学校ができた初年度に何よりも大切なのは、5校がひとつになって、いかにスムーズに良い形で軌道に乗せるかだと思う。研究発表は、2、3年経過して、取り組みを進めてからで十分ではないのか。」というご意見をいただいた。これは、厳しいご指摘だと捉えている。藤原中学校区と員弁中学校区が最初に研究指定を受けるにあたって、いなべ市内の先進校として、どのような歩みで小中一貫教育を進めてきたのか、その苦労や乗り越えてきたことなどを提示してもらえれば、後から続く中学校区に対して、良い提案になるのではと考えている。しかし、ご指摘のとおり、小学校の閉じ方と立ち上げが大切であることは理解しているので、今後、もう一度検討し、不安の解消に努めていきたいと考えている。

委員長・それでは、この場での推進ビジョン案の検討については、一旦閉じたいと思いますが、以降もご意見やご質問があれば、事務局へ届けてください。

日程第4 中学校区の小中連携の取り組み状況について

(いなべ市4中学校区の小中連携の取り組み状況について、資料「学力向上をめざして」を基に説明した。)

日程第5 意見交換

委員長・各分野の委員に集まっております。他に何かご意見やご質問があればどうぞ。

委員・(特になし)

日程第6 PTA及び市民への説明について

(PTA及び市民への説明について、資料「小中連携教育から小中一貫教育へ」を基に説明した。)

事務局・藤原校区の保護者の皆さんへは、懇談会を開催して新しい学校づくりについて説明をさせてもらった。推進ビジョンの策定が3月になるので、少し期間がある。すべての保護者のみなさんに、いなべ市は今後どういう教育をめざして、どのように事業を進めていくのかを理解していただくため、中間報告の意味でこの資料を作成した。この資料は、1月末か2月初めに、市内全学校の保護者の皆さんに配

布したいと考えている。

委員・この資料を1月末に配布する予定ということだが、一般の教師は、小中一貫教育の詳細については把握していないのが現状である。特に、コミュニケーション科やいなべ未来科などの新教科に対しては不安を抱くかもしれない。教科となれば、先ほども話があったが、評価を伴うことになるので、説明できるようにしたい。保護者への説明と教職員への説明が同時では、保護者から質問があった場合に答えることが出来ないので、事前に校長を通じて案を提示していただきたいと考えるがいかがか。

事務局・中心となって取り組んでいただくのは教職員であるので、すでに、校長会を通じて、「教師版」としてプリントを作成し、どのような教育を進めていくのか等は説明済である。各学校の教職員にも説明をしてもらってあると思っていたが、ご指摘のとおり、保護者への資料の配布の前に、教師版の詳しい資料の配布を検討したい。

委員・保護者がこの資料を見たときに、「なぜ、今、これをするのか」がわからないので、いきなり小中一貫教育と聞いても理解がされ難いのではないか。保護者がこの資料を見ただけでは、通学はどうするのか、授業はどのようにするのか、など「どうするの？」という疑問だけが先行してしまうように感じる。やはり、原点の「なぜ、これをするのか」を、十分に理解してもらうことが大切である。そこをはっきりとさせておかないと、問題や課題が起こったときに、問題解決の糸口が見えてこなくなるように思う。推進委員の中で、まず平成25年度には何が問題になっているのかを確認し、だから平成30年度から小中一貫教育を実施するのだという認識を持ち、そして、数年後には小中一貫教育を実施したことによって、いなべ市はこんなふうになくなった、という実績ができるのではないかと考える。

さらに、保護者に配布する資料には、例えば学力レベルの数値を示すなど、身近で具体的な例を明確に載せて説明するほうが、わかりやすいと思うがいかがか。

事務局・市民の皆さんに、より早く情報を伝えたいという気持ちから今回の資料を作成した。ビジョンの中身についての議論は、各中学校区で連携の取り組みに違いがあることから、平成26年度から各中学校区でそれぞれの課題は何かというところから話し合ってもらい、出来るところから取り組んでいく予定である。この推進委員会では、基本方針の部分を議論してもらっている。ご指摘のように、基本方針の部分だけで保護者のみなさんにお知らせをするのは、混乱を招くということはあるかもしれないと考えるが、情報も伝えたいという気持ちもあるので、再度、事務局で検討したい。

委員長・保護者へ配布する資料については、推進ビジョンと同じく「まえがき」「あとが

き」のような文章を掲載するなど、内容をもう少し検討していただきたい。

事務局・次回の推進委員会で、小中一貫教育に至った背景を、委員の皆さんに検討していただきたい。

委員長・このことについては、次回の推進委員会でもう一度議論する機会をもちたいと思います。

委員・PTAへの説明は、次回の推進委員会開催後になるということによいか。

事務局・はい。ご意見をいただきましたので、次回の推進委員会で議論いただいた上で、資料を配布したいと考えます。

日程第7 閉会